

当院医科病棟から当科を受診した
入院患者の実態調査

○稲田絵美, 岩崎智憲, 北上真由美*,
深水 篤, 佐藤秀夫, 武元嘉彦, 窪田
直子, 橋口真紀子, 菅 北斗, 村上大
輔, 森園 健, 徳地宏子, 山崎要一

鹿大・院医歯・小児歯

*鹿大・医歯・病院

〔目的〕当院では医歯連携下での口腔
管理体制を構築し、実践している。特に
当科では小児歯科の専門性を活かし、
小児科に限らず医科入院中の小児患
者の周術期口腔管理に携わっている。
今回我々は、入院患者の口腔管理に
関する現状把握と今後の充実化を目的
として、過去4年間に当院医科入院病
棟より紹介され当科を受診した患者につ
いて、統計的調査を行った。

〔対象と方法〕2010年4月から2014
年3月までの4年間に医科病棟より紹介
され当科を受診した患者166名について、
診療録に基づき、初診時の年齢、全身
疾患、主訴または紹介理由について調
査した。

〔結果〕医科病棟からの紹介患者は増
加傾向にあり、平均年齢は7歳9か月で、
0歳児が最も多かった。紹介理由は「手
術や骨髄移植前の口腔内精査」と「口
腔ケア」が最も多く、次いで「う蝕治療」が
多かった。

〔考察〕近年、医歯連携下における周
術期の口腔機能管理が重要視されてい
る。当科においても周術期の口腔内精
査や口腔ケアを目的とした紹介患者が
多かったことから、周術期における口腔
管理の重要性や需要が高いことが分か
る。また、0歳児の紹介は、その目的が
「口唇口蓋裂児への対応」や「乳児の哺
乳障害に関する評価」であり、当科の特
殊外来に対する需要の高さも明確にな
った。

福岡歯科大学医科歯科総合病院小児歯科
外来における初診患者の実態調査

○宮原那実・板家 智・比嘉ありさ・立岡迪子
逢坂洋輔・柏村晴子・岡 暁子・馬場篤子
尾崎正雄

(福岡歯大・成育小児)

〔目的〕平成23年度歯科疾患実態調査によ
ると、小児の齲蝕罹患率の低下と軽症化の傾向
が明らかとなっている¹⁾。また、近年小児歯
科に来院する患者の来院動機は、齲蝕治療の
みならず、口腔外傷や歯列不正など多岐にわ
たっている。そこで、最近の初診患者におけ
る傾向を明らかにするために、実態調査を行
ったので報告する。

〔方法〕対象は、平成22年4月から平成26年3
月までの4年間に本学医科歯科総合病院小児
歯科外来に来院した初診患者3008名に対して
初診時のプロトコール及び診療録を用いて調
査を行った。調査内容は年度別、性別、年齢
別、月別、地域別来院患者数及び来院経由、
主訴である。

〔結果〕

- ・年度別初診来院者数は年々増加していた。
- ・性別では男児の方が女児より多かった。
- ・年齢別では6歳、7歳の順に多かった。
- ・月別では8月、3月の順に多かった。
- ・地域別では福岡早良区が最も多く、福岡市
外・県外の割合は約1割であった。
- ・来院経由は紹介状無しが最も多く、他院か
らの紹介はH22～H24年度まで増加傾向を示し
たが、H25年度は2割減となっていた。
- ・主訴は齲蝕処置が最も多く、次いで歯並び、
予防、外傷、過剰歯の順で多く、特に口腔外
傷に関しては年々増加傾向を示していた。

〔考察及びまとめ〕今回、齲蝕処置に次いで
歯並びや予防を主訴とする患者が増加を示し
ていることから保護者の齲蝕以外の口腔疾患
に対する意識の向上が伺える。本病院は早良
区からの来院数が最も多いことを考えると、
より地域に密着した診療科として定着してき
たと考えられた。

今後も我々は、小児保健の充実と増進に寄与
していきたいと考えられる。

参考文献1)：厚生労働省、平成23年度歯科疾
患実態調査